

長崎市立三重中学校 学力向上プラン

県の成果指標

基本的方向性1(長崎県教育振興基本計画)
社会の変化に主体的に関わるための資質・能力を育み、一人一人の可能性を伸ばす

目標値 2025年までに全国平均正答率以上

学校教育目標

『確かな学力と健やかな心と体を持ち
自信と誇りをもって行動する生徒の育成』

目指す生徒像

- 目標達成のために主体的に考えることができる生徒
 - 目標達成のために協力できる生徒
 - 目標達成のために粘り強く取り組む生徒
- ＜成果指標＞・全国学力・学習状況調査及び県・市学力調査において長崎市の平均正答率等を上回る。

生徒の実態

全学年ともに学力調査(全国・県・市)の平均を下回る。その要因として、次の4点が挙げられる。

- ①家庭学習の未定着
- ②学力の2極化傾向
- ③問題を読み取る力の不足
- ④LD・ADHD等への個別支援の不足

市の成果指標(2025年度にめざす姿)

- ・夢や目標を持っている小中学生の割合(82.6%)
- ・ICTの活用によって、学習に取り組む意欲・態度が高まった小中学生の割合(80.0%)

授業改善：校内研修の充実

「自分で考えて判断し行動する生徒の育成～トライ&エラーを繰り返すことで成長し続けられる生徒の育成を目指して～」

- P(plan)D(do)C(check)A(action)サイクルを実行する力を身につけさせ、学力向上を目指す。
- すべての職員で、授業班、学級経営班、総合特活班、タブレット班に属し、研究部会や生徒指導部会等での研究の推進状況を確認し、効率的な研究の推進を図る。
- 授業の始めに「めあて」を提示し、授業の終わりに「まとめ」を行い、わかりやすい授業を目指す。

【令和5年度データ】

＜3年：全国学力調査・県調査＞
国語、数学で全国平均をやや下回っている。
英語で全国および県平均を下回っている。
＜2年：県学力調査・市調査＞
国語、数学で県平均を下回っている。
＜1年：長崎市学力調査＞
国語、数学で全国および市平均を下回っている。

学習意欲の向上、家庭学習の定着

- ・自主的・自発的な学習の促進
- ・見通しを立てたり振り返ったりする学習指導の重視
- ・「やることリスト」の活用
- ・指導の評価と改善(良い点や進歩の状況、過程の成果等をもとにした指導改善)
- ・各教科における計画的な課題や復習の推進(家庭学習の時間を全国平均まで近づける)

基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・個に応じた指導の充実(繰り返し指導、補充的な学習、発展的な学習等)
- ・体験的・問題解決的な学習
- ・英語寺子屋の実施
- ・学力診断テストの実施・分析
- ・授業始めの5分間でキュビナによる既習事項の復習
- ・研究部タブレット班との連携によるICTの有効活用

思考力・判断力・表現力等の育成

- ・各教科における言語環境の整備と言語活動の充実
- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・読書活動や生徒会活動、学級活動等における言語活動の充実
- ・朝読書の充実
- ・校内研修・研究内容の実践による表現力の育成

生徒指導・進路指導の充実

- ・不安や悩み等の調査とその活用
- ・ガイダンス機能の充実
- ・支援を要する生徒への指導の充実(個別の指導計画・教育支援計画)
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携
- ・地域施設や人材の活用
- ・通級指導教室の充実
- ・ワンストップ挨拶の推進・清掃活動の充実

教育環境の整備

- ・基本的学習規律の徹底(2分前黙想からの授業開始)
- ・学校生活環境における言語環境の整備(掲示物、校内放送等)
- ・GIGAスクール構想に対応するための研修と実践
- ・ICTや教材・教具の活用
- ・学校図書館の活用
- ・ALTや学校図書館司書との連携・活用
- ・少人数指導とTT授業の工夫
- ・昼休みや放課後の学習補充(学習会の実施)

家庭・地域との連携

- ・各種通信の発行
- ・生活習慣、生活リズムの実態把握による課題の共有
- ・「学びの道標」と「学びのすすめ」の配付と活用
- ・育友会活動や四校連絡会との連携
- ・校区内小学校との連携(英検の小中合同実施)
- ・クロムブックの持ち帰りとキュビナによる既習事項の復習

